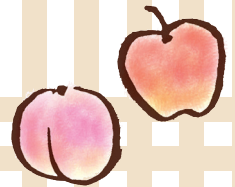


飛騨高山

残したい

想いと風



高山市
久々野町

亀山果樹園

かめやま
亀山

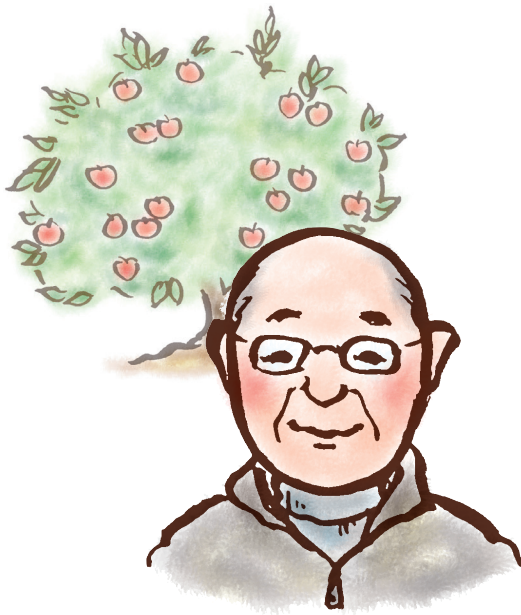
いさお
烈さん

久々野町の果樹栽培は

地道な開拓から始まったんやさ

いま美味しい果実が育つのは

みんなで努力してきたおかげやな



開拓地への移住

久々野町無数河(むすご)にある舟山(ふなやま)山ろくの傾斜地には、りんごや桃の畑が広がっています。

亀山烈さんは、美濃加茂市で果樹園の次男として生まれ育ち、終戦後にこの土地へ移り住みました。美濃地方からの開拓者入植に父や兄が参加しており、開墾して梨を植えた果樹園を一人で任されたのです。

豪雪被害からの奮起

最初は梨と桃を育てていましたが、昭和56年の「五六豪雪」で梨の木が折れてしまいました。被害を逃れた桃やその後植えたりんごは、現在では久々野町の特産品となっています。

昭和の農地開拓

まだ重機などなかった頃
人の力で開墾して木を植え
果樹園を開きました



ごうろくごうせつ

五六豪雪

昭和55(1980)年末～昭和56(1981)年2月にかけて、飛騨地方は記録的な大雪に見まわれました。この大雪で、特に梨の木が大きな被害を受けてしまいました。



ふなやま

舟山 (船山とも表記)

飛騨高地の中央に位置する、標高1,479 mの山です。高冷地の気候は果樹栽培に適しています。

終戦後の昭和20年代に開拓が始まりました。石が多い土地を耕す作業はとても大変なものでした。

久々野で育つ果実

高冷地の気候が
甘く美味しい果実を育みます



ジュースやジャムなどの加工品も販売しています。



りんご

9月～12月

さまざまな品種を栽培しています。



桃

8月上～下旬

寒暖差が大きい気候で甘く育ちます。



さくらんぼ

6月中～下旬



梨

9月上旬～10月下旬

試行錯誤の日々

久々野町では、昼夜の気温差が大きい気候のおかげで、色づきが良く糖度が高い果実が育ちます。

五六豪雪の被害から立ち直った頃から、甘い「飛騨桃」が市場で人気になり、新しく果樹園を始める人も増えていきました。

いっぽう、りんご栽培では、病気・害虫対策や、味の良いものを作る難しさなどの壁にぶつかりました。そこで、長野県飯田市の農家に依頼し、剪定(せんてい)や摘果(てきか)などの講習を開くことにしました。

こうして地域全体で栽培技術の向上を目指した結果、品評会で久々野産のりんごがたくさん入賞するようになりました。

現在と、これから

果実の販売は、市場や道の駅へ出荷するほか、個人への直売も増えています。

現在は後継者の長男が中心となり、ジャムやジュースといった加工品を企画したり、注文を受けられるホームページも作りました。

直接購入に訪れるお客さん、毎年遠方から注文が届くお客さん。リピーターが増えるたび「お客さんは正直。美味しいものを作り続けなければ次に繋がらない」と気持ち新たにします。

一から積み上げてきた果樹栽培は、「久々野町といえぱりんごや桃」と言われるほどになりました。美味しい果実が育つこの町を、若い人が引き継いでいってくれることが地域の願いです。

いま、
伝えたいこと



(文・絵)
企画 大森貴絵
高山市

昭和46年に出荷組合ができた頃は60人ほどの果樹農家がおったもんやけど、**今では半減**してまったんや。せっかくの果樹園が放棄されてまうのはもったいないこと。新規就農される若い移住者さんの存在はありがたいな。みんなでアドバイスして支えていきたいと思っとるよ。今の久々野町には、**美味しい果実が育つ知恵も技術もある！**子どもたちや若い人が興味を持ってくれるとうれしいな。